

5月30日、エルム大阪主催の標記講座が「自閉症の特性と学習スタイル」をテーマに開催されました。講師は自閉症eサービス全国ネットの中山清司さんでした。中山さんのお話は十数年ぶりにお聞きしましたが、以前にも増してお人柄がうかがえる温かな雰囲気での講座でした。

内容は、自閉症の原因論や症状の捉え方の歴史の変遷、自閉症の方の認知の仕方、強度行動障害の背景、支援プランの立て方など、とてもわかりやすい説明でした。お話のなかで、特別支援教育に触れられ、以前は、純粋な(不適切な表現かもしれませんが)知的障がいの子どものも、発達障がいのある子どもも、ダウン症の子どももみんな同じ教育を受けていたが、昨今ようやく障がい特性に応じた教育手法が工夫されてきたとの指摘がありました。今、考えると当然のような気がします。実際昔の特別支援教育(養護教育)では、特に障がい特性を意識することなく、授業をされていた先生方が多かったように思えます。最近は学校のシラバス(授業計画)も公開されるようになり、教育内容に関して先生方の共通認識が深まるようになりました。今後は、教育手法についても多様な障がい特性に通じる共通項を意識したうえで、知的障がい教育におけるさらなる細分化が求められるのではないのでしょうか。障がい者支援は、制度上、3つの障がい総合による弊害が騒がれることもありますが、教育・支援の現場においては個別性を追求することで、利用者の生活がより豊かに、より安定したものになると考えています。

奈良県手をつなぐ育成会主催研修

『法人後見制度について』

副理事長兼事業統括 上宮 俊一

6月6日、埼玉県手をつなぐ育成会の高野理事長さんから「この子もあの子も自分らしく幸せに」とのテーマで講演がありました。埼玉県では2007年に育成会内に成年後見制度推進部会を設置し、翌年に「NPO法人埼玉成年後見センターいきいきねっと」を設立されています。その後、2021年にNPO法人を解散し、現在は公益社団法人埼玉県手をつなぐ育成会の公益事業として、法人後見を担っておられます。

後見人を誰にするか?という問いに対して、親きょうだい、専門家それぞれメリット、デメリットがあり、各々のデメリットを解消できるのが法人後見だというお話は説得力があり、これぞ育成会の“天職”のように思えました。

講演は、成年後見業務の具体的内容についてご紹介いただきました。印象的だったのが、この仕事は人の死に直面することが多く、本来しなくてもいい業務になっている、葬儀や相続に関しても道義上関与せざるを得なくなる点でした。それは決して、温かみのない事務処理ではなく、ご家族とともに嘆き悲しみ、後見人自身が心を揺さぶられる体験であり、責任の重い尊い仕事であると認識できました。

太鼓サークルがはじまりました!



6月7日、5年ぶりに太鼓サークルが再開されました。今年度から太鼓サークル『土魂鼓(どこんこ)』の先生方からの指導を受けられるようになりました。初回でしたが、みんなで難しいリズムを練習し上手く叩けるようになりました。もっと練習して多くの人の前で発表することを目標に1年間頑張らしましょう!



大阪市育成会会員日より

《7月 支部連絡会について》

- ・日 時：7月17日(木) 13:00~
- ・場 所：社会福祉センター 第1会議室



《8月 支部連絡会について》

- ・8月は参集では開催しません。
- 資料の説明等、YouTubeで配信します。

活動報告(5月16日から6月15日まで)

| 活動日  | 内容   |
|------|--|
| 5/30 | 大阪市障がい者施策推進協議会<br>障がい者計画策定・推進部会<br>第2回ワーキング会議(大阪市役所) |
|      | エル・チャレンジ総会(福祉情報センター)                                 |
| 6/2  | 近畿連役員会(WE B会議)                                       |
| 6/3  | スポーツフェスタ総会<br>(大阪市立社会福祉センター)                         |
| 6/6  | 奈良県育成会法人後見制度研修会<br>(奈良県社会福祉総合センター)                   |